

人の手を介したもののづくり、 顧客の信頼を得る

- 納期相談
- 企画力自信有
- コスト相談
- オンリー技術
- メイトインジャパン
- 試作可小ロット
- 量産対応



さまざまな形状・色の口金を製造

業務内容 口金「ガマグチ」の 専門メーカー

「三陽金属」は財布やハンドバッグなどに使われる口金「ガマグチ」の専門メーカーだ。加工から仕上げのめつきまで自社内で一貫生産できる。工程ごとに請け負う事業者はあるが、高山正市社長は「一貫生産できるのは当社だけだろう」と考えている。

形状を左右する切断や曲げといった加工は、金型などに独自の工夫がある。口金の命とも言える留め金の加工は「玉付け」と呼ばれ、経験を積んだ技能者が一つひとつ、半自動溶接機を使い手作業で取り付ける。

人の手を介したもののづくりは手間がかかるが、布地への取り付けやすさや使い心地の良さなどにつながり、顧客の信頼を得ている。

強み 全工程の社内管理で 品質を最適化

同社は部分的に加工を外注するのではなく、すべての工程を自社内に持つことにより品質の最適化を図りやすいと考えている。そのカギとなるのが仕上げのめつき工程だ。

同社がめつき工程を内製化したのは約20年前。まだ先代社長の時代に、現社長の高山氏が「化粧（めつき）がないと生き残れない」と進言した。先代の反対はあったものの、売りに出していためつき工場を買収した。それまでめつきは外注していたが、「仕上がりは外注先のいいなりになる」。それが嫌だった。めつきの内製化により、顧客の要望に合わせた仕上がりで提供できるようになった。今では環境規制が厳しく、自前のめつき工場は貴重。こうした英断が同社のものづくりの今を支えている。

加価値 付加価値が高まるよう、 小ロット生産を提案

近年、訪日外国人旅行者数が大幅に増加して

おり、観光地として名高い京都を訪れる外国人の多さから、「外国にはないガマグチの商品が受けている」と高山社長は語る。土産物メーカーは商品開発のアンテナを張っており、品質に絶対の自信を誇る同社には追い風が吹く。

希少品として付加価値が高まるよう、小ロット生産の提案も欠かさない。コストを下げるには大量生産が有効だが、過剰な生産はリスクや商品値下げによる商品価値低下につながりかねない。「多少単価が上がったとしても、売り切れは商品の価値が上がる」というのが高山社長の持論だ。

後の展望 若手人材の育成に 力を注ぐ

高山社長は「ものづくりの楽しさを伝えたい」と、若手人材の育成に力を注いでいる。同社の各工程には独自のノウハウが多いが「従業員がすべての工程を担当できるようにしたい」という。

従業員が14名と少数精鋭なだけに、何らかの理由で「誰が欠けても（加工が）できる」よう、多能工を育てることが狙いの一つ。もう一つの狙いは、各工程の意味や理解が進むことにより「自信や考える力も身に付く」からだ。高山社長は「考えるから仕事になるし、楽しくなる」と解く。

高山社長は、「ものづくりのしんどさはある」と言いつつも、仕事の楽しさをかいま見せながら「メイドインジャパン」の誇りを後世に伝える決意をする。



豊富な曲げ型



めつき風景

当社の歴史



創業は昭和45年。主力の口金のルーツは、江戸時代の飾り職人までさかのぼる伝統のある産業です。かつて、大阪に40-50社あった関連メーカーは、法人としては2社ほどに減りました。2020年東京五輪で、関西や京都にも大勢の人が来るでしょう。外国のお客様にガマグチ製品を買って帰ってもらいたいですね。

代表取締役社長 高山 正市しょういちさん

<http://kuchigane.com/>

主な事業内容

財布・鞆などの口金製造

主な取引先(納入先)

袋物メーカー、袋物商社

- 住 所 〒544-0012 大阪市生野区 箕西2-1-44
- TEL 06-6757-6306
- FAX 06-6757-3813
- 創業 昭和45年6月
- 設立 平成25年10月
- 資本金 500万円
- 従業員 14名

大阪 29